

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第41回

森の彫刻家 上床利秋

## 私の新型コロナウイルス狂騒曲

中国の武漢から始まった新型コロナウイルスが、パキスタンで大発生が報じられている。私はバツタの発

また私の勤めていた大学の卒業式も早々に中止を打ち出した。最初のころはちよつと大げさうという空気もあつたかと察せられたが、やがてそれはごく当然の判断だつたことになつた。関連して送別会も中止。こういうことは前代未聞のことである。そういう訳で、これまで何十回も送る側として出席してきた私だつたが、送別会に現役教職を辞任する主人公になるはずの私の出版は消滅してしまつた(笑)。果たしてこの騒ぎはいつまで続くのだろう。ある医師は地球人口の7割は感染するという予測があることを教えてくれた。私は森のアトリエで黙々と静かに制作をせよというこ

新型コロナウイルスに押されているが、パキスタンで大発生が報じられている。私はバツタの発



生を聞きたびにい つも約30年前の馬毛島でのバツタの大発生を思い出す。

馬毛島とは種子島の西側に浮かぶ

無人島である。その当時、噂では殺人犯が逃亡して単独生活しているから時々島から煙が立ち上ると、種子島の住民は語っていた。ある日その島から山火が発生。島の多くを焼いてしまつた。やがて自然鎮火。収まつたのかと思いきや、夏になつて今度はそこにバツタが大発生したのである。

大群になつたバツタは小型化し羽が強くなつて、何時間も飛び続けることが出来るようになるという。秋になつてもその勢いは収まらず、寒さで死ぬと思われていたが、やがて冬を乗り切り、いよいよ種子島まで飛んでくるかと危惧された。実際に種子島西側の砂浜には大



杉の間伐をすることで、周辺に繁茂する草の種類も勢力が変わる。かつて、地球上を謳歌していた恐竜。今は人類の時代、しかし数百万年後、そこに繁栄するものは人類とは限らない。

量のバツタが打ち上げられ、その中には本当にまだ生きて動けるバツタを私自身発見したこともあつた。勿論当時の人間もただ手をこまねいて見ていただけではない。殺虫剤散布しても、鶏を放鳥してみても圧倒的なバツタにはそれこそ焼け石に水だつたのである。

五月になり、暖かくなつてきていよいよ万事休すかと思われていた矢先、意外な形でバツタ騒動は終焉を迎えた。梅雨に入り、長雨の続く中バツタは死んでいったのである。

その原因を調べるとバツタの体内にカビ類が発生し、それが仲間に感染していたのだ。バツタは死に絶えると同時にカビもまた同じ運命をたどつていった。

人間はバツタと違い、知識と団結力を持つている。きっとコロナウイルスにも克服していけることだろう。しかしながら地球にとって爆発的増加を続ける人間はバツタと何が違うのだから?人間の過剰繁殖は、限りある大地にとって、やがては人類そ

のものが地球を脅かす存在になることを想像させる。空想科学小説のようにやがて人間は宇宙に生活の場を求めていくのだろうか。まるで空気感染していくウイルスのように。

杉アトリエも春を迎えて様々な植物が芽を出してきた。鮮やかな若葉の色が美しい。しかしまた、この世界も生存競争は激しくて、去年とはまた違う植物が勢力を広げてこの世の春を謳歌している。

この森のアトリエで彫刻を共に作ってみませんか

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上床利秋

検索

このページのバックナンバーも読むことができます。

### レモン画材絵画教室 ご案内

- 隔週水曜日 10:00~ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00~ 油絵・水彩教室
- 隔週日曜日 16:00~ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00~ 子供絵画教室  
②13:30~
- 月1回 第2木曜 10:00~ 和紙ちぎり絵教室

お申し込みはTEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで